

●本校における道徳教育の推進

<前年度の現状>

- きれいごとから抜け出せず、児童が本音で発言をしていない。
- 全体の場で発表する児童が固定化している。
- 他の児童と意見が食い違うことを恐れている。
- ワークシートを用いての発表では、児童相互の意見が絡み合った発言に発展しない。
- 教師の意図を「読む」道徳になっている。
- 教師主導で、あらかじめ設定したゴールへ誘導しすぎてしまう。

【学校教育目標】

仲間とともに自ら未来を拓こうとする子どもの育成

ビジョン【めざす子ども像】

主体的に学びよく考える子	思いやりのある子
考えを自分なりに表現し伝え合う子	人や社会に貢献しようとする子

自走式の道徳教育

【道徳科 研究主題】

ともによりよく生きようとする児童の育成
～学びと体験による道徳的価値のよさや意義の発見・納得を通して～

○居酒屋道徳

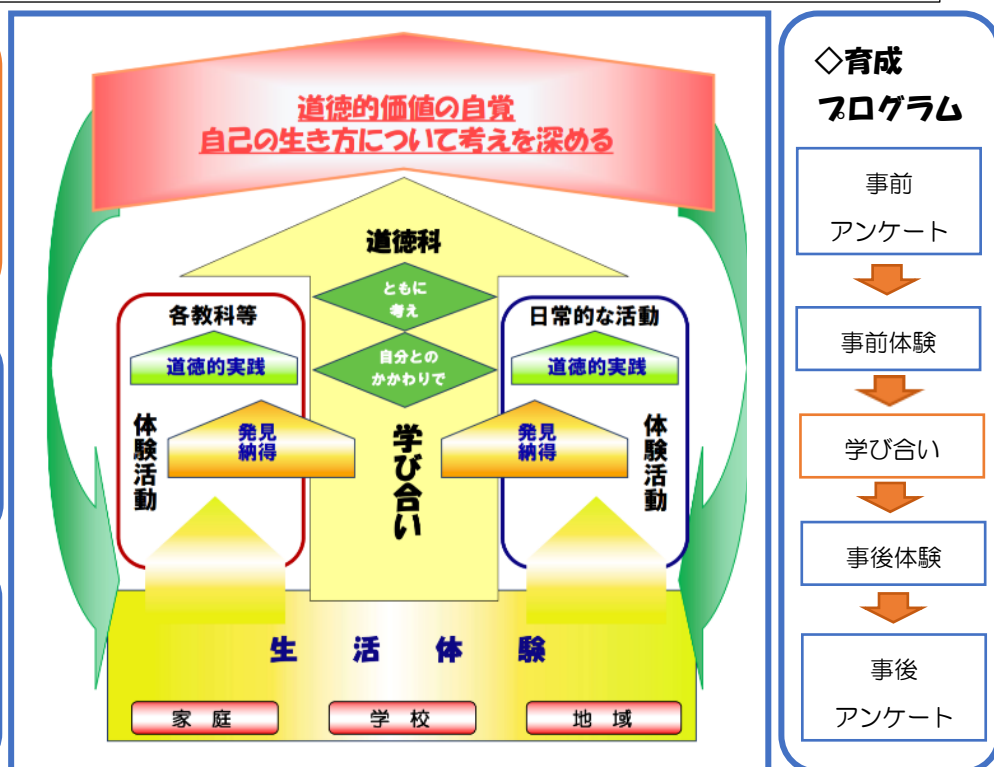
- 興味を持って聞き合い
- お互いの質問や切り返し
- 納得解
- 深め合う議論

◇研修

- 全学年のつながり
- 子どものとらえと発問

◇ほめリスト

- 自己肯定感の育成
- 道徳科の評価 (appreciation)



○ 目指せ！「居酒屋道徳」～主体的・対話的で深い学びを目指して～

道徳科は、みんなが本音で友達の意見に興味を持って聞き合い、自分たちで切り返したり質問をしたりして、納得解を探していくような時間になってほしいと考えた。ワークシートの発表大会ではなく、前の人の発言にミルクレープのように積み重なっていくような、あるいは、土を掘り合って、みんなで深め合っていけるような議論になってほしいと道徳教育推進教師が中心となり取り組んだ。